

前期基本計画

基本目標1 自然と共生する、環境保全都市

政策1-(1) 自然環境の保全

現状と課題

近年の自然環境悪化の要因には、廃棄型生産システム（大量生産、大量消費、大量廃棄）の経済スタイルやライフスタイルによる影響のほか、ダイオキシンや環境ホルモンなどの合成物質の開発、石炭や石油などを大量に使用してきた結果による二酸化炭素の増加などが考えられます。

自然環境を保全していくためには、行政、市民、事業者それぞれの自覚と協力が必要なことから、行政が率先して環境意識の高揚に努めることが重要であり、環境基本計画に基づいた行動を実践し、家庭や学校、地域、事業所等に広げていくことが求められます。

また、八郎湖は、平成19年度に湖沼水質保全特別措置法に基づく指定湖沼に指定され、水質保全対策が図られてきたものの、要因が多岐にわたるとともに複雑に絡み合っていることから、水質改善の根本的な対策は容易でないのが実情です。

目指す方向

自然環境を保全するため、地球温暖化対策や低炭素社会の構築、また地域の豊かな自然環境を保全する取り組みを進めます。



今後5年間で取り組む施策

施策名		主要な取り組み
1	環境意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○環境基本計画に基づき、様々な環境施策の推進を図ります。また、環境保全の普及・啓発を推進するため、クリーンアップの実施など環境保全活動の実施を支援します。 ○不法投棄を防止するため、啓発活動や看板設置などを行うほか、環境巡視員の環境パトロールの強化に努めます。
2	温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「地球温暖化防止対策実行計画」に基づき、公用車への低公害車導入やクールビズ・ウォームビズの実施など市が率先して環境に配慮した行動を実行するとともに、市民・事業者にも省エネルギーに関する普及・啓発を推進します。 ○公共施設等の更新時にあわせ、再生可能エネルギーの導入など、環境に配慮した施設整備を検討します。
3	八郎湖の水質保全対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○八郎湖の水質改善を図るため、産学官民が連携し浄化対策を推進します。また、流入河川の水質浄化を含めた市民の意識高揚を図ります。 ○地域素材を活用した環境教育プログラムを設定し、八郎湖の自然環境に触れ、環境保全に積極的に取り組む子どもたちの活動を推進します。
4	公害対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して暮らせるため、大気汚染、河川の水質、騒音等の調査を実施し、環境に関する情報について市民との共有を図ります。

目指す指標

達成度を測るための指標		単位	目標の方向	現状値 (平成26年度)	将来目標値 (平成32年度)
成果指標	自然環境の豊かさ	%	↗	69.0	76.0
	※平成26年9月の市民アンケートで「満足」、「まあ満足」と回答した率				
成果指標	自然環境の保全	%	↗	42.4	51.0
	※平成26年9月の市民アンケートで「満足」、「まあ満足」と回答した率				
活動指標	環境講習会の開催	回/年	維持	1	1
	環境調査の実施回数	回/年	維持	3	3
	公用車への低公害車導入	台	↗	9	12



政策1-(2) 循環型社会の形成

現状と課題

国では、環境保全是人類の生存基盤にかかわる極めて重要な課題となっていることを踏まえ、循環型社会の形成を一層推進することとしています。

本市では、「環境基本計画」、「一般廃棄物処理基本計画」、「分別収集計画」、「循環型社会形成推進地域計画」を策定し、各計画に基づき、3R*を基本方針にごみの減量と適正処理の推進による環境への負荷の少ない循環型社会の構築を目指しています。

ごみ焼却施設は基幹的設備改良事業により施設整備を実施し適正管理に努めていますが、最終処分場も含め廃棄物処理施設の整備については中長期的に安定した廃棄物処理体制が求められることから検討が必要となっています。

目指す方向

市民、事業者、市が情報を共有し、連携・協力しながらごみの減量や資源循環に取り組むことで循環型社会の形成を目指します。

今後5年間で取り組む施策

施策名		主要な取り組み
1	ごみの減量化	○3Rの取り組みを推進し、より効率的なごみの減量や資源回収のあり方、新たな資源ごみの指定について検討します。
2	ごみの適正処理	○ごみの収集運搬、中間処理、最終処分の一連の処理の過程で適正処理に努め、環境負荷の低減と再資源化を推進します。
3	廃棄物処理施設の整備	○最終処分場については、平成32年にも埋立処分地が満杯になると見込まれるため、さらなるごみの分別徹底を推進し延命化を図るとともに、今後の方向を検討します。

用語解説

※ごみの3R：Reduce（リデュース：減らす）、Reuse（リユース：繰り返し使う）、Recycle（リサイクル：再資源化）の頭文字をとった言葉で、環境配慮に関するキーワードとなっている。リデュース、リユース、リサイクルの優先順位で廃棄物の削減に努めるのが良いという考え方を示す。

目指す指標

達成度を測るための指標		単位	目標の方向	現状値 (平成26年度)	将来目標値 (平成32年度)
成果指標	リサイクル対策	%	↗	36.0	43.0
		※平成26年9月の市民アンケートで「満足」、「まあ満足」と回答した率			
活動指標	分別収集の種類	種類	↗	10	12
		※平成23年2月策定の潟上市一般廃棄物処理基本計画に掲げた目標			
	ごみ処理量	t/年	↘	12,191	10,527
※平成23年2月策定の潟上市一般廃棄物処理基本計画に掲げた目標					
資源化量	資源化量	t/年	↗	1,673	1,705
		※平成23年2月策定の潟上市一般廃棄物処理基本計画に掲げた目標			

参考データ

ごみ処理量の推移

(単位：トン)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
可燃ごみ	9,159	9,502	9,811	9,843
資源ごみ	1,043	1,047	1,085	1,215
不燃ごみ	730	720	709	507
粗大ごみ	597	740	603	616
有害ごみ	12	10	9	10
合計	11,541	12,019	12,217	12,191

資料：クリーンセンター